



# 足立区の高齢者孤立死 データ分析結果

データ出典：東京都監察医務院提供データ(平成28年～令和2年)

当分析では、「単身者の自宅での死亡」を「孤立死」と定義します。

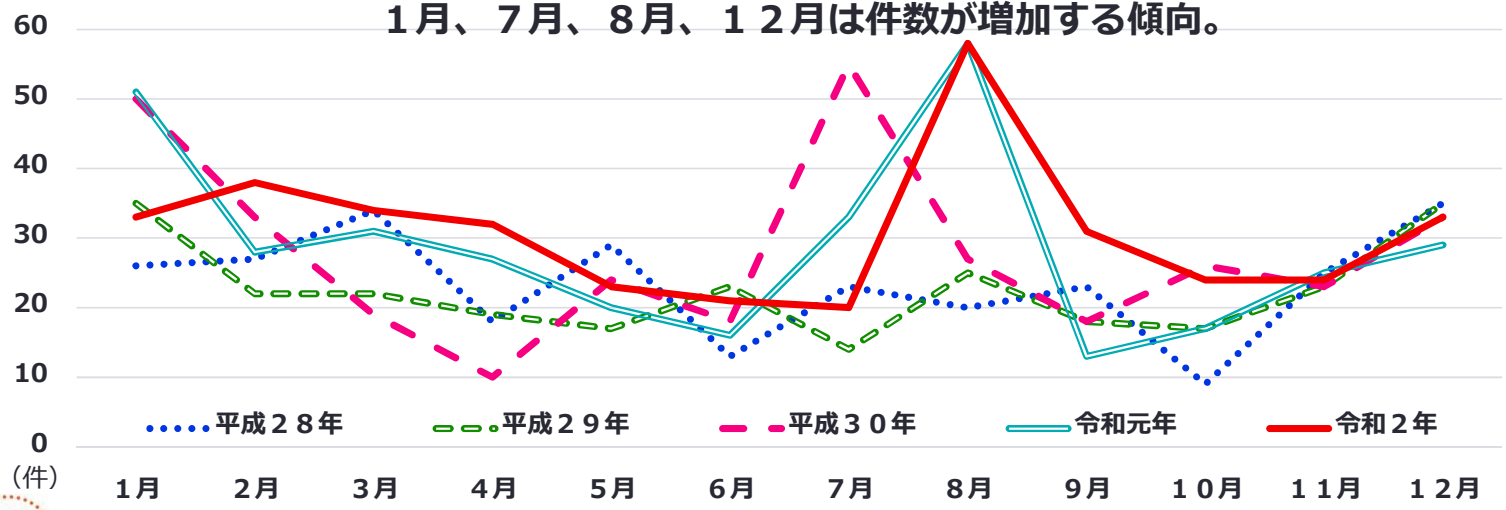
# ■■■■ 目次 ■■■■

1 死亡時期別の集計結果	
(1)足立区における高齢者孤立死件数(月別)	(P3)
(2)足立区における夏季、冬季の高齢者孤立死件数	(P4)
(3)熱中症死亡者の状況(特別区内全域、世帯構成・年齢不問)	(P5)
2 性別による集計結果	(P6)
3 死亡時年齢による集計結果	(P7)
4 コロナ禍における高齢者孤立死	(P8)
5 集計結果・分析結果	(P9)
6 今後の取り組み	(P10)

# 1-(1) 月別高齢者孤立死件数

年月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	高齢者人口 (1月1日現在)	高齢者増加率 (対前年)	高齢者孤立死増加率 (対前年)
平成28年	26	27	34	18	29	13	23	20	23	9	25	35	282	165,910人	+1.9%	
平成29年	35	22	22	19	17	23	14	25	18	17	23	35	270	168,323人	+1.5%	-3.6%
平成30年	50	33	19	10	24	18	55	27	18	26	23	33	336	169,994人	+1.0%	+24.4%
令和元年	51	28	31	27	20	16	33	58	13	17	25	29	348	170,890人	+0.5%	+3.6%
令和2年	33	38	34	32	23	21	20	58	31	24	24	33	371	171,378人	+0.3%	+6.6%
合計	195	148	140	106	113	91	145	188	103	93	120	165	1607			

1月、7月、8月、12月は件数が増加する傾向。



足立区における高齢者孤立死件数の増加率は、高齢者人口の増加率を大きく上回る。



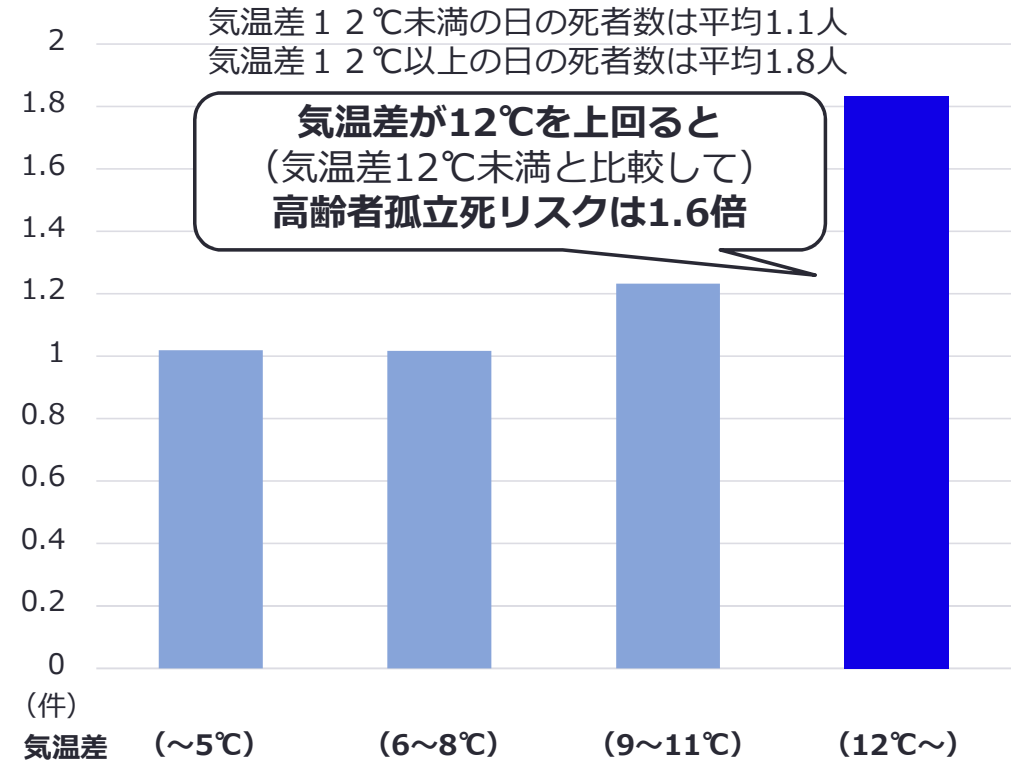
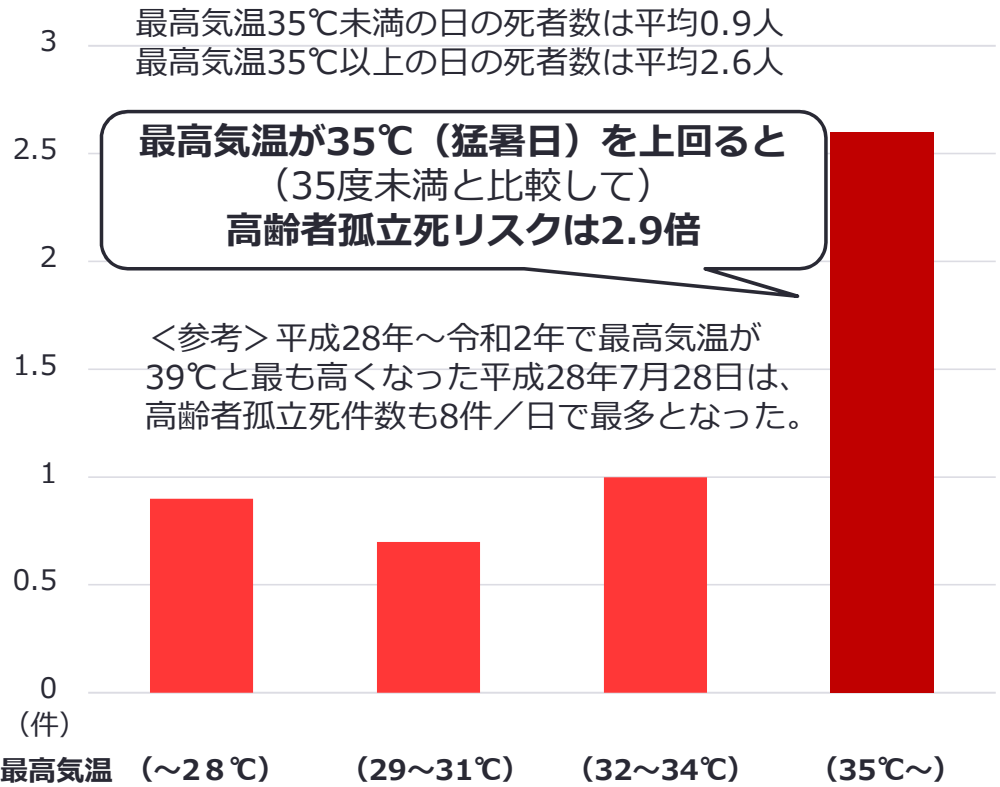
# 1-(2) 夏季(7月・8月)、冬季(1月・12月)の高齢者孤立死件数

夏季(7月・8月) 最高気温別

冬季(1月・12月) 最高気温別(最高気温-最低気温)

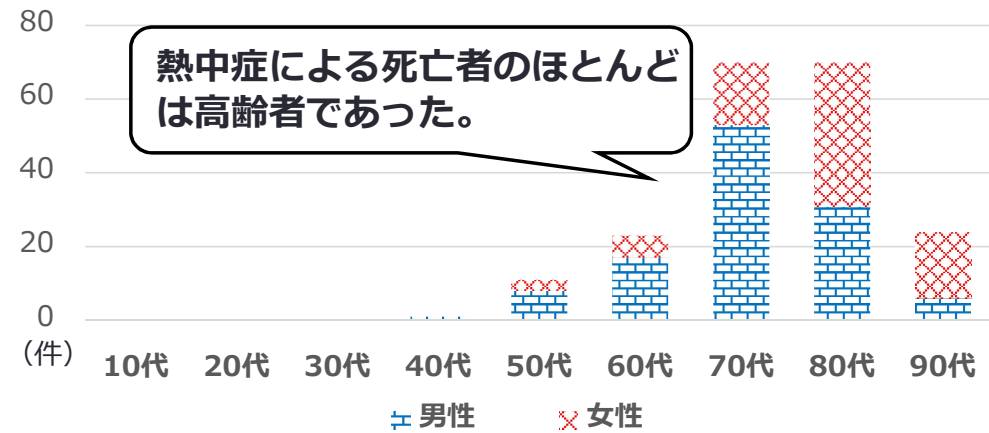
夏季の高齢者孤立死件数は、**最高気温と関連性**が見られる。

冬季の高齢者孤立死件数は、**最高気温と最低気温の気温差**に関連性が見られる。

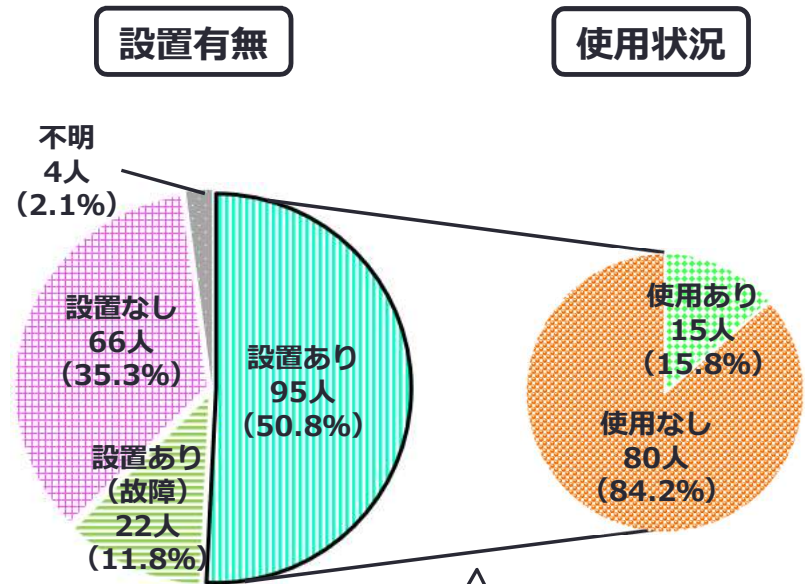


# 1-(3) 令和2年6~9月の熱中症死亡者の状況 (特別区内全域、世帯構成・年齢不問)

年齢、男女別 熱中症死亡者数

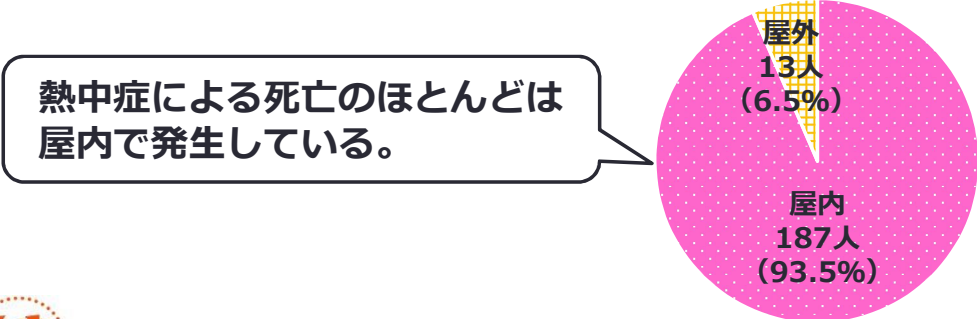


熱中症死亡者（屋内）のエアコン設置有無および使用状況



熱中症で死亡した人のうち、84.2%はエアコンが使用できる状況であったが使用していなかった。

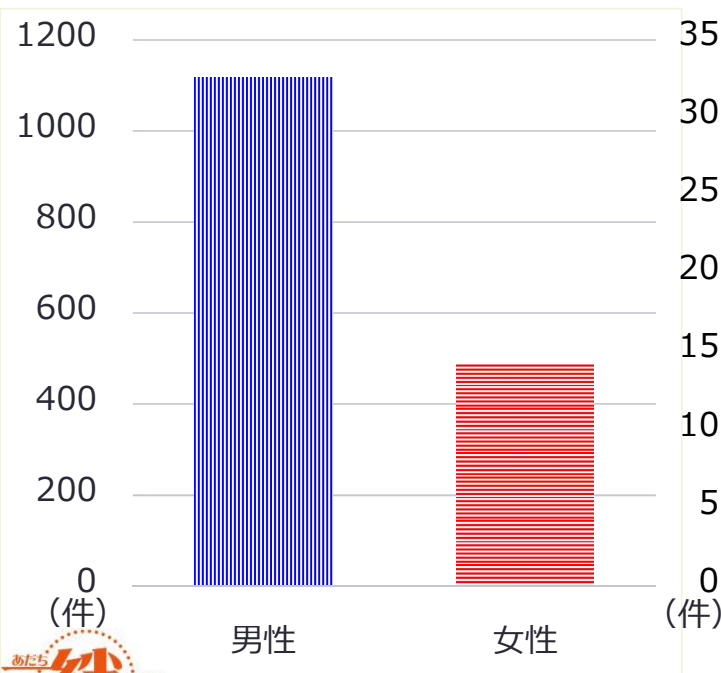
死亡場所（屋内外）の割合



## 2 高齢者孤立死状況（性別）

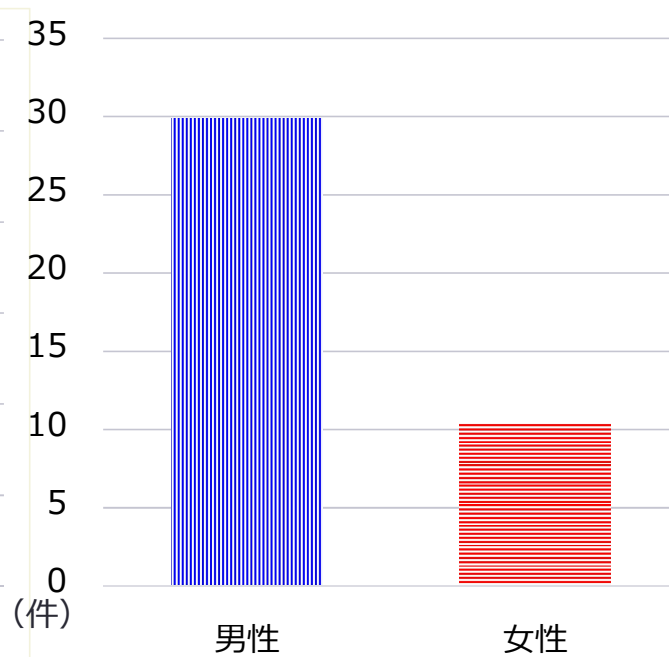
●性別ごとの高齢者孤立死件数  
（平成28年～令和2年の合計）

男性1,118件 女性489件  
男性の方が2.3倍多い



●性別ごとの高齢者1万人当たりの  
高齢者孤立死件（平成28年～令和2年の合計）

男性29.9件 女性10.4件  
男性の方が2.9倍多い

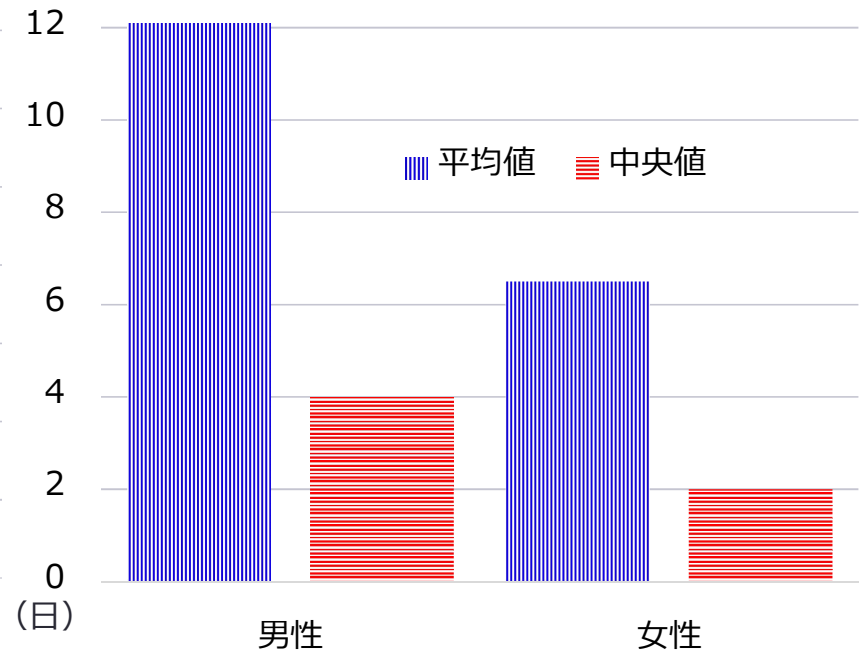


●性別ごとの死後経過日数（平成28年～令和2年）

【平均値】男性12.1日 女性6.5日

【中央値】男性4日 女性2日

※中央値とは値を昇（降）順に並べたときに中央の順位にくる値  
いずれも男性の方が2倍程度の期間を要している。  
また、30日以上経過は約89%が男性であった。

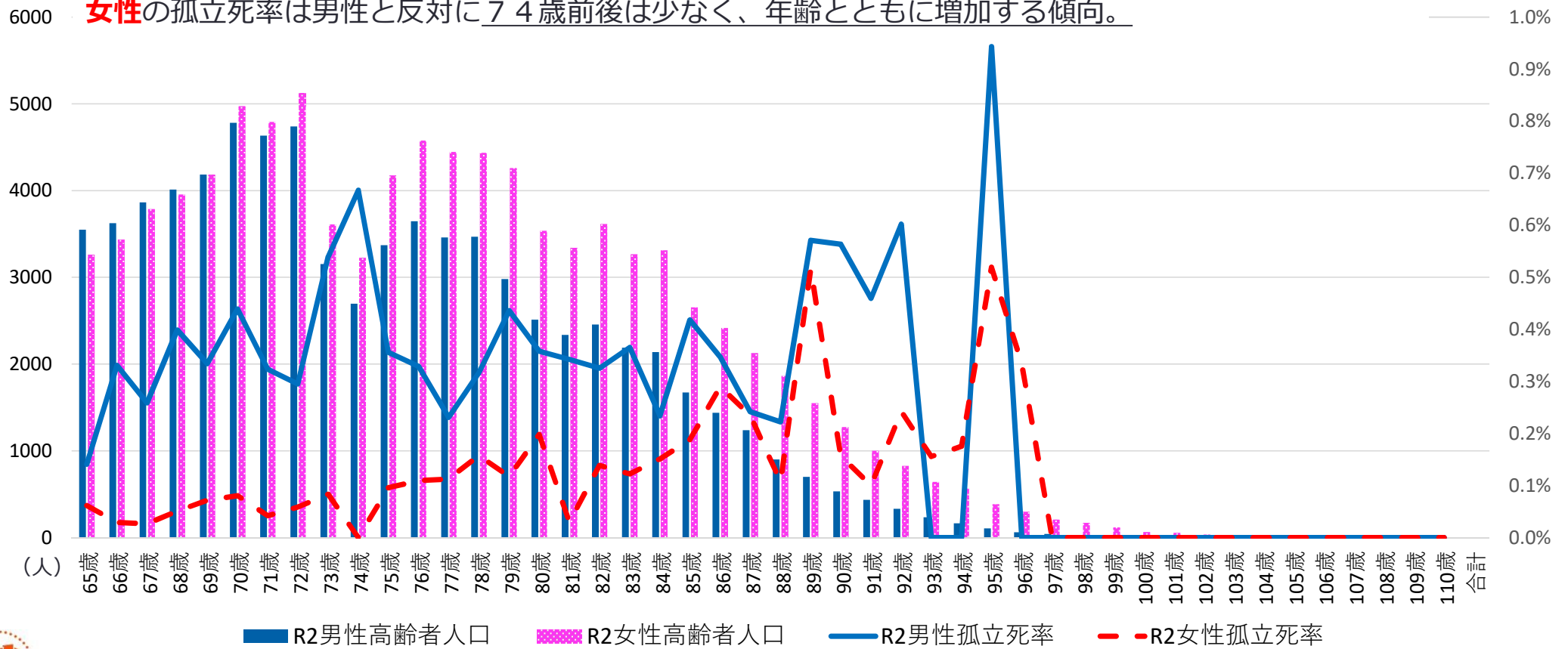


### 3 高齢者孤立死状況(死亡時年齢別)【令和2年】

※孤立死率 = 孤立死件数 ÷ 高齢者人口  
(いずれも男女別の数値で計算)

男性の孤立死率は74歳前後で最も高くなる。

女性の孤立死率は男性と反対に74歳前後は少なく、年齢とともに増加する傾向。

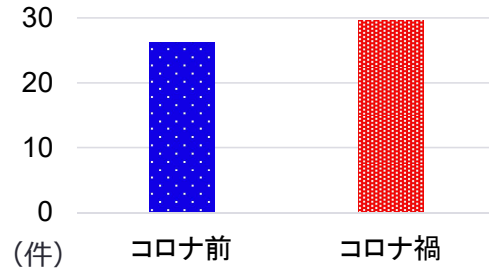


# 4 高齢者孤立死状況（コロナ禍における変化）

死亡日にて、平成28年1月～令和2年3月を**コロナ前**、令和2年4月～12月を**コロナ禍**と定義する。

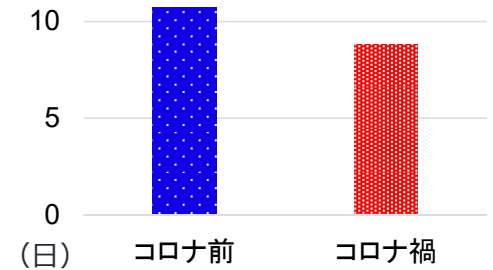
## ●発生件数（一か月当たりの平均）

コロナ前 26.3件  
 コロナ禍 29.6件  
 →13%増加



## ●死後経過平均日数

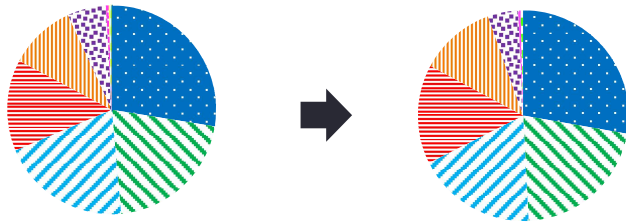
コロナ前 10.7日  
 コロナ禍 8.8日  
 →17%減少



## ●発見者 →特段の変化なし

コロナ前

コロナ禍



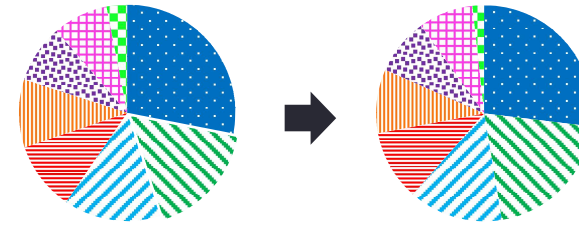
- 家族
- 保健・福祉関係者
- 管理人
- 通行人

- 隣人
- 知人
- 配達人
- 警察官

## ●発見の経緯 →特段の変化なし

コロナ前

コロナ禍



- 日常生活中
- 最近、姿を見かけない
- 電話応答なし
- 偶然の目撃
- 発見の経緯

- 配達物の停滞
- 異臭
- 無断欠勤・契約不履行
- 不審音・電気機器などの点けっ放し



# 5 集計結果・分析結果

## 集計結果

## 分析結果

全体	集計結果	分析結果
時期別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>高齢者孤立死件数は年々増加傾向</u>。足立区における<u>高齢者孤立死件数の増加率は、高齢者人口の増加率を上回る</u>。</li> <li>・ <u>夏季（7月・8月）、冬季（12月・1月）は高齢者孤立死件数が増加する傾向がある</u>。</li> <li>・ <u>夏季（7月・8月）の高齢者孤立死件数は最高気温と関連性が見られ、最高気温が35℃（猛暑日）を上回ると、高齢者孤立死件数が2.9倍になる</u>。</li> <li>・ <u>冬季（12月・1月）の高齢者孤立死件数は最高気温と最低気温の気温差に関連性が見られ、気温差が12℃を上回ると、高齢者孤立死件数が1.6倍になる</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者孤立死件数が増加する夏季・冬季は、最高気温・気温差との関連性が顕著なため、<u>今後、区としてできる対策を検討し、周知することで件数を減少できる可能性</u>がある。</li> </ul>
男女別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性別ごとの高齢者1万人当たりの高齢者孤立死件数は<u>女性に比べ男性は2.8倍多い</u>。</li> <li>・ 発見までに要した平均経過日数には、<u>女性に比べ男性は2倍の期間を要している</u>。また、30日以上経過していたケースは89%が男性だった。</li> <li>・ <u>男女・年齢別の孤立死発生率は男女でピーク年齢、傾向が異なった</u>。男性は74歳が最も高い。女性は74歳前後が少なく、年齢とともに増加する傾向（令和2年）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者1万人当たりの高齢者孤立死件数、発見までに要した平均結果日数は<u>女性に比べ、男性が大幅に上回った</u>。また<u>男女で発生しやすい年齢層がある</u>ことも分かったため、ピンポイントの対策により、防止効果が期待できる。</li> </ul>
コロナ禍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ前と比べ、<u>高齢者孤立死発生件数はコロナ禍で13%増加</u>した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍では発生件数の増加以外は特段大きな変化はなかった。今後（令和4年度以降）も<u>コロナ禍における高齢者孤立死データ分析を継続</u>する。</li> </ul>

## 6 今後の取り組み

- ア 高齢者の相談窓口である地域包括支援センター及び地域の見守りを行っている関係機関に情報提供し、**孤立死が増加する夏季や冬季に重点的に地域の見守りを依頼**していく。
- イ 孤立死の現状について、絆のあんしんネットワーク連絡会等の関係機関の会合で本分析を活用してもらうことにより、**区民への周知・啓発を進めていく。特に**孤立死件数が増加する夏季・冬季に重点的に広報等による周知を図る。****
- ウ コロナ禍における孤立死増加の有無については、令和3年中の孤立死の状況も確認する必要があるため、**令和4年度も引き続き分析を進める。**
- エ 環境政策課（エアコン購入費補助金）、建築安全課（浴室暖房設置工事費助成）などの**関係所管と情報共有を進め、より効果的な孤立死対策について検討**していく。